

京都教区時報

第98号

田中司教認可

毎月1日発行

発行 京都司教区 発行責任者 村上透磨
 編集 京都カトリック教理センター 住所 京都市左京区仁王門通新高倉東入 Tel 761-9095

1985年復活祭司教教書

わたしと平和③

ちりさな命からのメッセージ

柄子 真弓

みなさん

ほくたち わたしたちは 他のどの子とも同じように
 神さまから 祝福されて この世に生まれてきたんです

それなのに わたしが 生まれたとき

お父さんも お母さんも 泣いた

周りの人達も 「かわいそうに」 「お気の毒に」 って言
 うんです

失礼じゃないですか

わたし達は カわいそうな存在でも

お気の毒な存在でもありません
 限りなく 愛である神さまから 祝福され 愛されて

この世に 送られてきたんです

じやあなぜ お父さんもお母さんも
 泣いたんでしようか

それは 今の世の中では

ハンディキャップのある人が 生きてゆくのは
 とっても辛いことだと 知っているから

妊娠した 世のお母さん達が
 「五体満足な子が授かりますように」



カウント
まゆみさん
(登美が丘)

登美が丘教会のボランティア活動「ユーカリの会」地域のハンディキャップのある子とその家族と共に歩む会…にかかわって3年目。自身もダウント症児の母であったが、その三男拓也君を4年前6歳で亡くされた。

愛である神様が何故障害児をこの世に送られるのかを問いつづけ、「あの子が生きていたらこう言いたかったんじゃないかな」という気持ちで書きました。「これからも地域のハンディを持つ子と共に歩んでいきたい」と願う。

でも「障害児は生まれて来ませんように」 つていわれるのは
 わたし達には この上もなく 辛いことです
 「頭のいい子が生まれますように」 つていわれ
 願うのも 無理のないことです
 だって そんな人に都合のよい社会が できてしまつ
 ているのだから

どうか みなさん こんな風に祈つて下さいませんか
 「神さまが くださるどんな子も みんなで力を合わせ
 て 大事に 育てあげられますように」と
 お父さん お母さん
 わたしは あなたのところに 生まれてきました
 あなたが 罪を犯した罰ではありません
 あなたに 特別な力があるからでも ありません
 ただ 神さまが そう決められたからなのです
 限りなく 愛である神さまは
 「幸せに生きるんだよ」と わたしを
 あなたのところに 送りこんで下さったのです

司祭評議会定例会議報告

2月4日 カトリック会館6F

司祭評議会議長 ジョセフ・ルーニー師

- (1) 京都教区宣教司牧評議会の報告
事務局の村上(透)師より、1月19、
20日の会議の報告があった。

(2) 「日本の教会の基本方針と優先

課題」について

評議員それぞれの意見が出され、
今後もひきつづき取り組んでい
く事が話された。

(3) 国際青年の年について

青少年担当の大塚師より、現状
報告があつた。特に行事は計画
していないが各ブロックの青年
の動きを見直していきたい。

(4) 平和旬間にについて

越知師より、昨年のやり方がよ
かつたので、今年も同じように
事務局実行委員会を作つてやつ
ていきたい。尚、他ブロックで
やれる事や、小教区でも平行し
てやれるものを考えてほしいと
いう意見が出された。

(9) 財務委員会について

予算の申請をする場合などのた
めに、財務委員を作つてほしい
との要望があった。

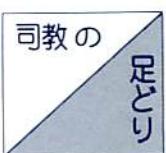
- (5) 「京都教区宣教活動補助金」の
申請の承認について
審査委員会の報告通り承認され
た。

(6) 聖香油ミサの司祭、修道士の集
まりについて

今年は昨年のようすに3月28日(木)
午後7時よりミサがあるが、5
時から田中司教を囲んで司祭、
修道士の集まりを行う。

(7) 司教座聖堂のリフトが完成

(8) 召命促進委員会よりの要請
司祭に対して、委員会について
の紹介と今年の予定を含めて、
司教よりの手紙を出すことにな
った。



2月											
1日	通夜(吉崎氏)。										
2日	N親子来泊。O家代表來訪。										
3日	(1)河原町ミサ。(於小寺ビル)。										
4日	司祭評定例会。Sr.C來訪。										
5日	京都カテキスマタ会(ミサと懇親会)。										
6日	宣教司教委(東京)。										
7日	ブランカス新管区長(MG)と面談。										
8日	社会司教委。										
9日	海星高校図書館ほか祝別・落成式(四日市)。										
10日	SSN終生誓願式ミサ(鹿ヶ谷)。										
11日	台湾正平協同と夕食会。										
12日	ヌヴェール会管区長來訪。ウイチタの聖ヨゼフ総長ら來訪。										
13日	宣教司牧事務局会。										
14日	ジヤクソン師を聖ヨゼフ整肢園に見舞う。教区幼稚園々長会。										
15日	京都東ロータリーで講演。宣教司牧常任委。										
16日	毎日新聞記者と会見。古屋司教・リーノ師來訪。										
17日	(日)奈良県司評総会ミサ(西大和)。										
18日	京南司祭月例会。										
19日	高校卒業式。										
20日	灰の水曜日。										
21日	司祭評定委。ローマからの巡礼團とミサ・懇談。										
22日	諸宗教委(手引の反省)。森東										

=祈りのこもつた素朴な味=

修道院製ワツキー
ミサ用ブドー酒
和洋酒

タキノ

〒604

京都市中京区錦小路通東入
TEL (221) 0976-7

あなたの良き隣人として

カトリック御葬儀
貨物一式(仏式可)

聖ヨゼフ葬典社

パウロ 杉下安雄
(西院教会所属)

京都市右京区西院寿町23
☎ (075)312-7829

美し印 刷

(K)からふね屋

京都市左京区東山通仁王門下ル
〒606 ☎ (075)761-1166(代表)

京補佐司教叙階式に古屋司教
と共に参加。
(宗)責任役員会。
聖家族高校卒業式。園部教会
訪問。
アベ・マリア幼稚園室建築竣
工式。ヌヴェール九条修院訪
問。



一九八五年復活祭司教教書

国際青年年にあたり

明日の希望・青年のみなさんへ

京都司教 ライムンド 田中 健一

× × ×

話しさは大変具体的になりますが、時々こう云う事を聞きます。「教会は自分達に魅力がない」「教会は自分達に居場所を提供してくれない」「教会は自分達のことを考えてくれない」とか。

尚、今年は、国連が提唱する「国際青年年」に当りますので、特に青年のみなさん一人ひとりに焦点をあて、申し上げたいと思います。この復活の喜び、希望、平和、生命こそは明日を背負う青年のみなさんに一層意義深いと思います。

みなさんもご存知のよつに、教皇様は年頭の平和メッセージで、「平和と青年は共に前進する」と申されました。

しかし、このもつともだと思われる点の中に、また多くの人びとの誠

意の悩みの中に、私は一つの盲点がかくされているのではないかと思ひます。

私はここで、青年のみなさんに次のような事を問い合わせたいのです。

それは私をも含めた、すべての信仰の仲間たちへの訴えでもあるのです。

(一) みなさんは、人が何をしてくれるか、何をしてくれなかつたかを問うのでなく、何が人のために出来るか、何を人のためにしなかつたか、反省して頂きたいのです。

(二) これは信仰についても同じ事が云えると思います。親が、教会が、信仰について何をしてくれたか。何をしてくれなかつたかを咎めるよりも、自分達の信仰を通して、何かを、親や教会に、社会等にすることが出来るのか。又自分達の信仰生活において、何をしてこなかつたのかを反省することが大切だと思います。

(三) 自分達は将来の教会、社会、家庭に義務や責任があるが、そのためには信仰の視点から、どのように取り組むべきかを考えて見るのは決して早や過ぎないと思います。

例えば次のような事は必ずやつて参ります。

① 司祭は年毎に老令化しております。10年後、20年後、自分達の世代に、現状のままで働ける司祭は半減するでしょう。その時どうしたらよいでしょうか。

② 教会の建物・施設も老朽化し、手狭になることも考えられます。その時自分達の教会はどうなるのでしょうか。

③ ますます非福音化していく社会にあって、自分達はそれを乗り越える信仰的力を頂いているでしょうか。逃げればよいのでしょうか。否、逃げれば世界はますます非人間化され、福音化の洪水の嵐の中で、自分の生命さえも保つ事が出来なくなるでしょう。

そのような世界の中であっても、人間らしく生きのびて行く唯一の方法があります。それは神の救いの青写真に従つて真に人間的、福音的に生きて行く道を求める事だと確信いたします。信仰は重いと考えられるかも知りませんが、眞の信仰は「軽く、快い」(マイ 11・30)のです。

×

×

×

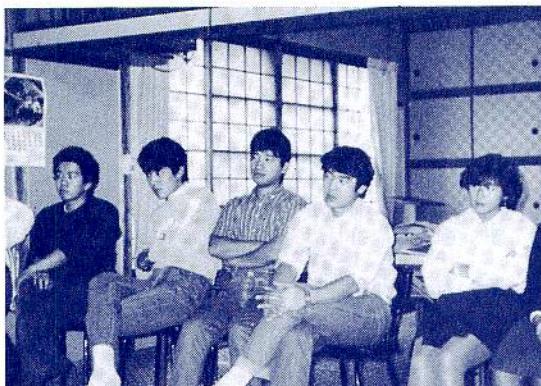
そこでみなさんは祈っていますか。共に祈っていますか。祈るすべを

学んでいますか。神について、

又神が私たち一人ひとりに何をして下さったかを学び続けてい

ますか。神の愛と慈悲のみ心に従つて、愛と意義を信仰と希望に基づいて努力を払っています





(A) 戦後40年がたちました。あの焼け野原と瓦礫の山を思い出すと今の生活の夢のような復興と発展を有難く感じます。しかし物質文明の進歩に比べて、精神文明のそれはあまりにも遅れてしまいました。この不均衡の中で青年達は育つて参りました。ここに現代の大きな悩みがあると思います。

バチカン公会議、教区ビジョン、日本教会の優先課題などは福音の原点を探りつつ、この不均衡を少しでもいいとめようと努力しております。青年達はこの不均衡の犠牲者でもあります。でも被害者、犠牲者と云つて責任を大人に、他者に訴えて反抗したくなる気持ちも解らないではありませんが、それは子供のような甘えではないかと思います。失敗はありませんが、それは子供のような甘えではないかと思います。

北と南の貧富の差を考えて見るとき、南の人びとの苦しみと悲惨の大部分が、北の人びとの責任ではないかと云う反省が芽ばえてきました。この辺の関係については、昨年の「平和への歩み学習会」で学ばせて頂きました。そのまとめは時報の号外で報告しております。——この点に関する数多くの著書があり、例えば大義道子氏の「人間の大地」や日本司教団の「平和への望み」は参考になると思います。

今「よきサマリア人」の^花喻え話を読み返しております。そこには五つのタイプの人びとが居ると思います。

- ①加害者(強盗)
- ②被害者(傷ついた人)
- ③無関心者(通り過ぎた人)
- ④手をさしのべた人(よきサマリア人)
- ⑤更にもう一つ、この^花喻え話を他人事として傍観している人、又は批評はしなくとも自分の事として見ない人であります。私たちはこの最後の人になりやすいと思います。

今、この事を、特に平和の問題にあてはめて、みますと、私たちは、平和を自分の問題として受けとめていない。多くの場合、加害者、無関心者、特に傍観者・批評家の立場にいるのに、それに気付きたくない。又、この^をえを、個人的な善意に対する態度としてのみ見るあまり、団体としての立場から読む事に欠けるのではないか、と思うのです。

個人としてだけでなく、個人を超えた大きなグループの反省と改心が必要なのではないでしょうか。

戦争がないから平和と簡単に云えない事はよくご存知であります。不正、不義、差別、抑圧、偽りがある所には平和は無く、人権、人命が軽視される所にも平和はありません。人間の心に欲望と利己心、憎しみがある限り、それにもまして愛と正義と真理を追求しない限り平和はありません。加えて永遠なるもの、神への眞の信仰が育たない限り、又眞の神、平和の神への謙虚な共順がない限り平和はあり得ないであります。

以上のような困難な課題に充全な対応をさせてくれるもの、それは私達に与えられた「福音」の力だと思います。平和は可能だと云うことをあきらめてはならないのです。——特に若い人びとはあきらめてはなりません。困難に会えば会う程、勇気と希望とをもつてそれと戦つて行くのが若者の特徴だと思います。希望、無謀と思われる程の希望を持つ事

こそ若者の特徴だと思います。希望は祈りを生み、希望は実行を生み、希望は失敗を恐れません。失敗したら再び起き上り他の可能性を探します。信仰者は孤立者ではなく、苦しみつつも一緒に働いて下さる神のみ業に信頼する協働者、神の国^をしるし、道具なのです。

親愛なる青年のみなさん、少々手書きらしい口調で申し上げましたが、しかし前にも云った通り、これは私をも含めて、信仰の仲間達みんなにあてはまる事だと思ったからです。

どうか青年のみなさん一人ひとりが、少しでも誠意をもつて耳を傾けて下さり、自分達の信仰をより深く見直し、神の国^を実現に参加し、神の救いのご計画の開発のために勇気を出して関わって下さい。

平和の元后、聖母マリアも私共と一緒にあります。殉教者の島、日本^の無数の信仰の先輩も私共と一緒に^て共同体です。復活し給う榮あるキリストの祝福が、みなさん一人ひとりの上に豊かでありますように心から祈念して、すべてを平和の君、キリストの御手にお委ねいたします。

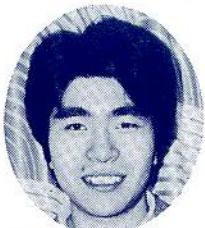
一九八五年四月七日

復活の主日祭に当つて



ケニアへ行きます！

ステファノ・ガンジー 本柳孝司くんにインタビュー



横浜市西区出身 23才
現象所に就職、すぐ京都に配属されて3年。
去年のXマスに西院教会で洗礼を受ける。

●アフリカの人のために働く
きたいという理由は何ですか?
「高校の時、ケニアのトルカナ地方の大干魃(カバハラ)のテレビを見てアフリカに興味を持ちました。それと小6の時にガンジーの本を読み、彼の生き方を貫く非暴力主義、キリスト教で言う“愛”に心を打たれ、自分もそ
うできればいいなっていう気持ちはずつとありました。」
夢が実現する事になつた
きっかけは?

アフリカへ行つてもこの人のために働きたいといふ夢を抱きつづけていた責任が、神父様やシスターとの出会いの中でその夢がかない、4月1日ケニアへ向けて出発した。出発の前にそれまでの経過などのお話を伺つた。

「2年くらい前、そのことで
いてもたつてもいられない気持
ちにかられた時、カトリック教
会がアフリカ難民に救援してい
る事を知り、教会へ行けば何か
がつかめるんじやないかと、近
くの衣笠教会へ行きました。そ

その後ボアベール神父様、Sr. 米屋に会い、メリノール会から正式に送つてもらえる事になつた。やっぱり導かれた…といふ気がしますね。努力したかどうかよくわからないけど、とにかくそれを最優先にして、たっぷり時間をかけた事は確かです。」
「むこうで、どんな仕事をするのですか？」

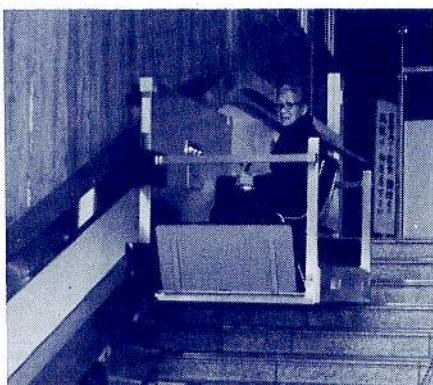
きたいという理由は何ですか？

「高校の時、ケニアのトルカナ地方の大干魃のテレビを見てアフリカに興味を持ちました。それと小6の時にガンジーの本を読み、彼の生き方を貫く非暴力主義

本柳くんがケニアでむこうの人々と共に元気で働けるよう皆さんお祈りください。尚、今後、彼らの手紙を紹介していくたいと思っていますのでおたのしみに。

きょうと〈教区〉しが〈教区〉なら〈教区〉みえ

昨年十二月二十八日、河原町教会に車椅子用昇降装置が完成した。ご承知のとおり、同教会の正面入口の階段は十四段、約一米の高さがあり、車椅子のかたは、数名の手を借りなければ昇ることがで
きない。これを何とかしてほしいと云う声が、すでに数年来、同教会の内外から聞かれ、信徒会でもしばしば検討されて、自走式の昇降機の設置なども提案されていた。スロープも検討されたが、設置す



るスペースがなかつたのである。

るスペースがなかつたのである。

ご承知のとおり、同教会の正面入口の階段は十四段、約二米の高さがあり、車椅子のかたは、数名の手を借りなければ昇ることができない。これを何とかしてほしいと云う声が、すでに数年来、同教会の内外から聞かれ、信徒会でもしばしば検討されて、自走式の昇降機の設置なども提案されていた。全教区のご協力に心から感謝して、ご報告を終える。

五〇万円余、子羊会で一〇一万円余、二七小教区から九六万円余集り、河原町教会で残額約四五七万円を負担して支払を終えた。
(河原町での募金は約五四〇万円、残額も福祉関係に用いる予定である)。

みなさまの御協力で

障害者用エレベーター完成

